

作業の機械化

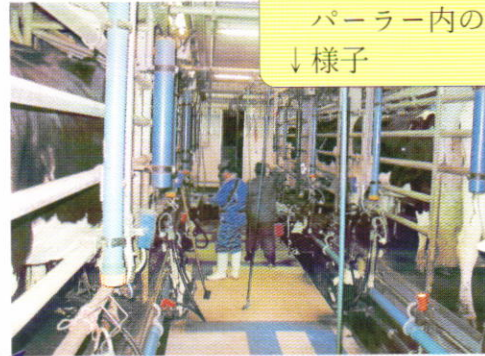
機械化が可能な作業は機械で行い、労働力と時間を節約しています。

牛舎は機械作業を考慮して、通路を広くとった設計になっています。(以前の牛舎も、給餌機械を入れるために、中央の通路を広くとった対頭式の繋ぎタイプ)

パーラーの導入により、1人で搾乳が可能になったため、搾乳時、経営主は給餌と除糞を並行して行っています。



↑機械による
給餌風景
パーラー内の
↓様子



子供たちの夏休
みの乳加工体験



日中は比較的自由な時間があり、グループ活動や、地域の行事に積極的に参加しています。

また、子供達とも加工やグループ活動の楽しさを共有するために、親子での加工を毎年実施しています。

当牧場の 経営方針

ゆとりある
経営のために

○新製品発売直後の導入はさける。

→改良型の発売や購入価格の低下の可能性がある。

→情報収集により導入の判断ができる。

特に、新しい技術を導入するときは、実際に使った人の意見を参考に、導入の判断をします。



例えばパーラーです。
導入にあたっては、発売直後のタイプには飛びつきません。

使用者の意見や我が家の飼養規模を考慮して、現在使用しているタイプに決めました。

○投資に際しては無理のない計画をたてる。

→小さな借金や利息でも、重なれば経営を圧迫するので、借金はなるべく少なくなるようにします。

○治療は早めに行う。

→早めの治療で、短期間に回復します。このため疾病牛が少なくなり、良質乳が安定的に出荷できます。

また、作業時間の短縮にもつながります。

事例5 コスト意識に基づいた経営の展開

常にアンテナを張り巡らせ、省力化や生産性の向上に関わる多くの情報から、必要なものを吟味し、いち早く経営に取り入れる柔軟な経営を実践しています。また、常にコスト意識を持ち、技術導入にあたっては建設費用や導入費用をできる限り押さえる工夫をしています。

経営概要

労働力	家族2人 雇用1人
飼料作物面積	40 ha
乳牛頭数 (内経産牛)	167 頭 92 頭
出荷乳量	813 t



フリーストールとバーンスクレーパ



廃材利用牛舎と自動ほ乳システム



構内舗装、成牛舎

こんな取り組みをしています！

取 り 組 み 内 容	コスト削減の工夫	導入時期 (年)	導入経費 (千円)
地域でもいち早く導入した構内舗装(6,000円/㎡)	手持ちの砂を利用	H 4	
フリーストール、パーラー、TMR給餌、固液分離機、バーンスクレーパの導入	既存牛舎の改造	H 7	18,000
通年をめざした雇用	アルバイト雇用	H 9	
外部委託システムの飼料用とうもろこしの作付け	3件共同で利用	H10	
牛舎内トンネル換気方式の採用	一部自力施工	H10	500
自動ほ乳システムの導入	調整室の自力施工	H13	950
牧草収穫機械利用組合の設立利用 コークラッシャ付き自走ハーベスタ オートスワッサ付きモアコンの導入	補助事業の導入	H13	

経営者の考え方・方針、取り組みの成果

技術の導入にあたってのポイント

- ①常に「一歩でも少なく」作業できる施設、配置、作業体系を考え、多少費用がかかっても実践する。この考えは雇用者を含め農場内で共通の認識とするよう努めています。
- ②自力で可能な工事は、雇用者を使いながら自力施工します。
- ③機械は、効率化された新しい機種への導入に努め、下取り価格の高いうちにさらに、効率化された機種に更新する。正しい情報を得るためセールスマンを大事にします。

取り組みの中で省力化、効率化について、最も投資効果が高かったその成果

- ①フリーストールによる一連の作業体系：特にバーンスクレーパが有効に機能。作業の質が変化し省力化が達成されました。
- ②自動ほ乳システム：ほ育時間が短縮し、楽になり、他作業が充実しました。
- ③構内アスファルト舗装：春、秋の作業性が改善され楽になり、環境的にもよく見えます。

今後の展望・目標

- 一連の省力化、効率化にともない作業の質が変化し楽になりました。
- 今後は、技術の高い雇用者を育成するなどして仕事を任せられる人材を確保したい。



牧草収穫共同作業



効率的な飼料庫